

GLOBAL TIMES VOL.3

SGH の取組と成果の発表 (Presentation)

■平成27年度SGH研究発表会を開催しました！

3月12日(土)、浄るりシアターホールにて「平成27年度SGH研究発表会」を開催し、生徒のプレゼンテーションや展示など取組成果を発表しました。生徒たちにとっては、人前で英語で発表する度胸がつくとともに、グローバルな視点から地域の課題を発見し、解決するための道筋を学ぶことができ、有意義な発表会となりました。今後も地域と一体となってSGH課題研究に取り組んでいきますので、ご理解・ご支援をよろしくお願いいたします。また、ご多用の中、多くの皆様にご来場いただきましたことに心から感謝申し上げます。

○課題研究発表テーマ等

①マレーシア クアラルンプール大学での研究発表(4グループ)(英語版)

- A Mangrove is connected to forests, rivers, and the sea
- B People, Economy and Mangrove
- C The change in the use of "Satoyama"
- D "Kiku-Sumi"

②地域課題の解決に向けての発表(3グループ)(日本語版)

- A 環境保全に及ぼす植林の効果
- B 炭から見た地域課題
～地域再生のための新しいライフスタイル～
- C レッテンバッハ村に学ぶ能勢町復活の鍵

③SGHの取組み展示公開(会場ロビー)



○運営指導委員等による講評

運営指導委員 岡田尚美氏(国際開発機構) 平岡光生氏(能勢町商工会) 片寄俊秀氏(みつや交流亭)
平田篤州氏(産経新聞厚生文化事業団) 吉年匠子氏(大阪府教育委員会)

来賓 池嶋伸晃氏(大阪府教育委員会) 上島一彦氏(大阪府議会) 山口禎氏(能勢町長) 森田雅彦氏(能勢町教育長)

■第10回大阪府高等学校総合学科研究大会で発表しました！

12月20日(日)、大阪市立咲くやこの花高等学校にて第10回大阪府高等学校総合学科教育研究大会が開催され、本校2年SG重点分野講座生徒11名が展示と発表を行いました。午前中には、会場校のロビーにあるブースにSGHの活動内容を紹介したポスターや手作りのボードを設置し、本校のSGHの取組を紹介しました。また、午後の発表に備えて、発表の練習やリハーサルを行いました。午後からの研究大会では、大阪府内の様々な学校の特色あるプレゼンテーションを見ることができました。能勢高校の発表は、最後から2番目。SGHの概要、普段の活動内容、研究課題、そしてマレーシア研修での実態調査の内容を、パワーポイントを使って11名で発表しました。

SGHメンバーの中には、「これまでにも発表の機会はあったが、今回は大阪府内の多くの教職員や生徒の前での発表なので緊張で足が震えた」という生徒もいましたが、見ている側からはそれを感じさせない素晴らしい内容の発表でした。



講座と講師の紹介 (Lecturers)

● 1年 SG 基礎知識講座

第15回 ● 安野 だんまる さん (団丸一座)

12月17日(木)、「紙芝居で世界をつなぐ」をテーマに、公園のヒーローだんまるさんに講義を行っていただきました。紙芝居の実演では生徒たちから大きな笑いが起こり、紙芝居は人を笑顔にすることができる素晴らしいコミュニケーションツールであることを学びました。また、楽しいと思えることを仕事にすること、自分で選ぶ人生を送ることの大切さについても教えていただきました。



第16回 ● 小早川 勝平 さん (元青年海外協力隊員)



2月18日(金)、元青年海外協力隊員の小早川勝平さんに講義を行っていただきました。片言の英語でバックパッカーとして世界を放浪した経験や、フィジーでの青年海外協力隊の経験、その後の海外での地雷除去の仕事、フランスのマルセイユと能勢を栗で繋ぐ取組など、盛りだくさんな内容でした。海外での経験を能勢町にUターンして活かすアイデアについても聞くことができ、グローバルかつローカルな活動への意欲を高めることができました。

● 2年 SG 基礎知識講座

第10回 ● (株)ECC外語学院

12月18日(金)、ECC国際外語専門学校を訪問し、グローバル体験プログラムを実施しました。空港でのチェックインの際の英会話の練習から、ECCで学ぶ留学生と1対1での対話、また日本の伝統芸能を学ぶ講座を受講。交流した留学生は母語が「英語」の方は一人もおらず、第二外国語として「英語」を勉強し、今は第三の外国語として「日本語」を勉強している方ばかりでした。「間違ってもよいので、まずは何か話してみよう」というアドバイスをもらい、自分たちと同じように外国語学習でがんばっている方々の意見は、生徒の心に響きました。



● 2年 SG 重点分野講座

第24・27・30・33・34回 ● 齊藤 俊幸 さん (地域再生マネージャー)



11月28日(土)～2月13日(土)の間、5回にわたって、これまでのSGHの学びをいかに地域に活かすのか、地方衰退に歯止めをかけるための地方創生のプロセスについて学び、能勢における地方創生についてテーマを決めてレポートを作成するという課題研究を行いました。「植林の意義と種類」「炭の種類」「銀寄委員会とレッテンバッハ村」の3グループに分かれ、それぞれのグループでの課題研究の内容を現状、課題、提案事項の3項目から考え、簡単なレポートを作成し、それをもとに、発表用パワーポイントを作成。最終発表までに課題研究を進めるよう指導していただきました。

第25・28・29・31回 ● 藤岡 慎二 さん (㈱プリマペンギン代表、能勢町教育魅力化コーディネーター)

12月19日(土)～1月30日(土)の間、藤岡慎二さんに4回にわたり「アクティブラーニング(AL)～コミュニケーションデザイン～」をテーマに講義を行っていただきました。「リーダーシップ」「問題発見解決能力」「創造力」等についてお話いただき、今後生徒がグローバル人材(世界を知り、世界とつながり、地域問題を解決し活性化することができる人材)として活躍していく上で必要とされる様々な能力について学びました。



第26回 ●和光 広典 さん（能勢町付加価値創造協議会（銀寄委員会））

12月19日（土）、能勢町の地域活性化に取り組む和光広典さんに「地域活性化とネットワーク～能勢のにぎわいづくり～」をテーマにお話いただき、これまでの活動等について知ることができました。さらに、能勢で外国人向け宿泊農業体験「ウーフ(WWOOF)」を行っておられる今中重美さん、ウーフの利用者ウーファー(WWOOFER)であるマシミリアノさん（イタリア）、ジョシュアさん（アメリカ）にもゲストとして講座に参加していただき、生徒との交流の時間もあり、充実した内容の講義となりました。



第32・35・36回 課題研究講座 ●乾 陽子 さん（大阪教育大学 化学生態学研究室 准教授）



2月9日（火）～3月5日（土）の間、乾陽子さんに3回にわたって、「マレーシア 経済発展と自然破壊」というテーマで講義をしていただきました。これまでに各グループごとに決めたテーマに沿って情報収集やマレーシアにおける実地調査等の研究を行ってきましたが、いよいよその最終段階です。3月12日の最終発表会に向けたプレゼン資料の作成とリハーサルを行いました。

来年度のモンゴル課題研究（Next Study）

来年度（平成28年度）のSG重点分野講座はモンゴル「貧困とストリートチルドレン」～子どもたちへの教育～をテーマとして課題研究を実施します。講師は今年度もSGH講義を担当していただいた大阪大学外国語学部モンゴル語学科の今岡良子准教授。来年度の2年生（現在の1年生）11名が1年間を通して取り組み、事前学習や海外実態調査、重点分野講座などを通して課題研究を進めていきます。



モンゴルのマンホールチルドレン↑

○課題研究の取組内容

開発途上国では、都市化により貧困が増大し、住む家を持たずに生活するストリートチルドレンが問題となっています。モンゴルでは寒い気候のためマンホール内で生活する子どもが多く「マンホールチルドレン」と言われています。そういった子どもたちやシングルマザーへの支援を行っているモンゴルジェンダーセンターの取組について学び、能勢高校の特色である養蜂などの農業技術や一村一品運動、フェアトレードを通じた支援活動について考えていきます。こういった支援が母親の支援や子どもたちの教育環境の向上のために必要なのか、地域課題を直視してみんなで考え、意見を述べていきます。



ジェンダーセンターの取組の一つ↑である自習学校づくり（教育支援）

○海外実態調査について

8月6日～12日の7日間、モンゴルにおいて海外実態調査を実施します。首都ウランバートルを訪れ、ジェンダーセンターや赤十字社、セーブザチルドレン等の施設での体験活動を行います。また、ロシア国境に接するセレンゲ県を訪れ養蜂場を訪問します。その他にも、ウランバートル市内観光や民族衣装のデールの試着、モンゴル料理やモンゴルの子どもたちの遊びの体験、羊の乳搾りやヨーグルトづくりを通じた遊牧民の暮らしの体験などの様々な体験を通して、モンゴルの文化を体感することも狙いの一つです。



遊牧民の暮らし→



校外学習・国際交流

■日本・モンゴル民族博物館を訪問しました

12月17日(木)、1年SG重点分野講座として、兵庫県豊岡市但東町にある「日本・モンゴル民族博物館」を訪問し、モンゴルの歴史や文化を学習しました。

生徒15名はバスで本校を出発し、大阪大学の今岡良子准教授・今岡ゼミの大学生3名・モンゴルからの留学生2名と大阪大学箕面キャンパスにて合流し、博物館へと向かいました。バスの中では、今岡先生のミニ講義、ゼミ学生や留学生との交流がありました。博物館では、学芸員さんの案内で館内を見学。モンゴルの移動式住居ゲルのコーナーでは、全員がゲルの中に入り詳しく説明を聞きました。ゲルの中央に置かれたストーブでは家畜のフンを乾燥させたものを燃料としていることなどの説明を受け、モンゴル遊牧民の日常生活について具体的に知ることができました。また、民族衣装の試着コーナーでは、今岡先生の指導で生徒たちは色鮮やかな民族衣装を身に着け、交代で記念撮影を行いました。

来年度、この1年SG重点分野講座生徒11名が、本格的にモンゴルについての課題研究を行い、モンゴル訪問を予定しています。今回の博物館訪問は、来年度のモンゴル課題研究に向けて良い事前学習の機会となりました。



■プトラマレーシア大学生と交流

平成27年12月16日(水)、オイスカマレーシア主催の研修を通じ、プトラマレーシア大学の学生20名と教員3名が来校しました。今年度は、6月にマレーシアから高校生が来校しましたので、第2回目となる交流です。



この日、マレーシアの学生たちは、色彩豊かな民族衣装で訪れてくれました。午前中は、本校2年生の生徒全員で歓迎セレモニー・交流会を行いました。両校代表者の挨拶から始まり、記念品の交換、学校紹介、また留学生からマレーシアの武道・ダンス・歌の披露、能勢高校からは空手道・ダンスの披露がありました。

セレモニー後の交流会では、マレーシアの伝統的な遊び「チョンカ」を教えてもらいました。全体の交流会後は、2年SG重点分野講座生徒が中心となり、昼食交流や農場案内、また浄るりシアターへも同行し、人形浄瑠璃を実際に体験しました。大学生にとっても本校生徒にとっても、充実した一日となりました。

2年生は、マレーシア修学旅行に向けて、すばらしい事前体験になりました。

■SGH英語プレゼン講座・宿泊勉強会を実施しました



12月22日(火)23日(水)、連携大学である大阪国際大学を会場として、1泊2日の宿泊勉強会を開催しました。2年生は、1年次から夏休み・冬休みと長期休業毎に行っており、今回で4回目。6名の参加ということで少人数ではありましたが、内容の濃い勉強会になりました。また、スーパーグローバルハイスクールの授業の一環として、大阪国際大学のスミス先生による英語プレゼンテーション力を高める授業をしていただきました。

■箕面市国際交流協会を訪問しました

1月30日(土)、1年SG重点分野講座生徒13名が箕面市国際交流協会(箕面市立多文化交流センター)を訪問しました。最初に、館長の岩城あすかさんより協会の活動について説明があり、続いて大阪大学の今岡良子准教授より、モンゴルの基礎知識について手書きの絵を使いながら英語で講義がありました。次に、モンゴル人留学生のエネビシさんから、自分の生まれ育ったモンゴルの町の紹介や文化・伝統についての話がありました。最後は、場所をセンター内のcomm caféに移し、3グループに分かれcaféスタッフのアンドレイアさん(ブラジル)、金姫廷さん(韓国)、陳幸愔さん(台湾)と交流を行い、様々な国の文化・伝統に触れる良い機会となりました。

